

収録・解説 酒井董美

語り手 大原寿美子さん
(明治40年生まれ)

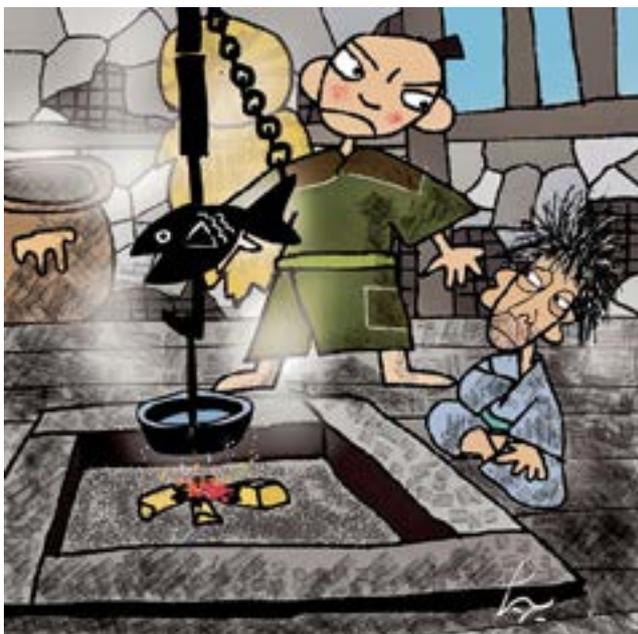
昭和54年10月7日収録

あらすじ

昔、とても貧乏な家があった。大歳の晩に家の取れる柱は取って囲炉裏にくべて火に当たっていたら、奥の方から出てくる者がある。おじいさんで髪も口髭も白髪だらけ、ぼろの着物を着て囲炉裏へ座る。亭主が怒って「だれじゃ、人の家の奥の間から出てくるもんは」。貧乏神じゃ」「貧乏神じゃと。うらの家はこれだけ貧乏して困りよるのに」と言ったら「うら、この家に入りこんでから8年たつ。こんにはっかかりおるじゃ」と言った。「何でうちばっかかりおらにゃならん」

貧乏神と福の神

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

生活を豊かにしたい願い

でここにいろげんじゃろげん(動けん)じゃ。(居座る、の意味)「とどげんさえなりたけりゃしたら殿さんが飛んで出られるけん」(何とかしたければ)、

「ここにクドがあるうこのおっかあをばい出が。その前へカンスを入せ。追い出いたら言うておつたけど、こげえ難儀しちよつたらかなわおまえも別れりゃあならん。どぞへ出てご亭主は新しくよい奥さんせえ」。おっかあはしぶをもらって、樂しゅうにしが出て行った。

正月2日に殿さんのおちり。

解説

国替えで、行列が「下へ、下へ」と通るから、亭主はこのときこそと、類話は全国的に存在して出で「えい」と天秤しているが、さほど多くは棒をたたいたら、家来のない。中国、四国あたり方をたたき回した。「やにあるが、それ以外ではり損のうた」。貧乏神は数えるほどしか見つからない。待て待て、1週間したくない。

「殿さんはもどつてこられる。今度は殿さんをめるのは、昔から貧乏人ががけにゃいけんで」。それを1週間たつて迎えて生活を豊かにした。殿さんの駕籠をめぐたいという願いが、庶民けて天秤棒でたたき回つたところ、大判や小判が出た。 (元鳥取短期大学教授) (水曜日に掲載)

亭主はかき集めたり、